



通信

謹賀新年 VOL.5

令和2年1月4日

作成：長岡正宏



合気道は 丸く捌いて、三角に入身して、四角に固める。



あけましておめでとうございます。

本年もよろしくお願ひいたします。新元号が「令和」になり最初の正月を迎えたことになる。令和の文字から、平和が永遠に続く世の中になって欲しいとの思いが読み取れる。

外務省は諸外国に正確に理解してもらおうと、「令和」には「Reinventing Japan」、美しい調和という意味が込められていると説明するよう各国在外公館に指示したという。「令和」は、合気道を表現した元号であり、これからは合気道の時代であると思っっているのは私一人だけだろうか？



拝殿より合気神社本殿を望む



左から道主、磯山師範、植芝充央

12月初旬に少年部の昇級審査を行った。稽古前に元氣よく道場を走り回っていたが、審査が始まると真剣な眼になり気持ちを集中させていた。将来の「達人」を彷彿させ内心嬉しく感じた。合気道をずっと続けてもらいたいと心より願う。



ワンポイント・アドバイス

足(脚)は何処から何処まで？

通常、足(脚)はつま先から股関節までを指すのだろう。私はつま先から大腰筋までをイメージして足として捉えている。大腰筋は大腿骨小転子から腰椎と胸椎12番付着している。すなわち、大腰筋は下半身と上半身を繋いでいる筋肉でもある。大腰筋を意識して上半身と下半身を自然に動かす。



大腰筋

大腰筋の付着個はも長呼ばれてる。大腰筋の作用は、人間的な筋肉を調べる。

合気の旅

茨城県笠間市にある合気会茨城支部道場の敷地は広い。敷地の南側に今でも「植芝」の門柱が残されている。知らない人も多いようだ。この門柱を通り過ぎて左側へ行くと、栗の木「愛樹マロン」が植えられている。この辺りは栗の産地で、秋には栗祭りも催される。愛樹マロンがある所は、かつて大先生が晩年まで畑仕事をされていた所だ。早朝稽古が終わったので少し頂いた。大変美味しかった。大先生が畑仕事をされていたから。きっと土が肥えていたのだろうと感謝をした。



道心探究

合気道の稽古中、よく「相手に合わせる」「相手と合っていない」と言われる。我々は、「そうか、相手と合わせなければいけない」と素直に意識して、それに努める。我々日本人は聖徳太子の時代から和を貴んできているので、違和感なく受け入れられるのだろう。「自他同一」「自他一如」「和合」「不二」などの思想は、日本独特のものかもしれない。

「合わせ」について、個人主義の世界で生まれ育った者は、理解できないことがある。攻撃してくる敵に「なぜ合わせないといけないのか」と不思議に感じるそうだ。海外で「合わせ」を知らない道場では力重視の稽古になっている。合気道を格闘技として稽古をしている道場もやはり。日本人でも武道は試合重視となってきた。「合わせ」を理解できない人が増えてきたようにも感じることがある。

僅かではあるが、東洋思想・日本文化・禅・ユングなどに興味を持った国内外の人たちが合気道を熱心に稽古するような時代になりつつある。誠に嬉しい限りだ。我々は合気道を通じて日本文化を学び表現していることを誇りに思い、稽古に励んで欲しい。



何を合わせるのか？

～先人の言葉～
場を主宰する。

多田宏合気会本部道場師範 九段

